

国立子ども教育・健康増進センター「ズブリヨノク」の概要

1. 沿革

国立子ども教育・健康増進センター「ズブリヨノク」は、1969年にベラルーシのピオネール（ソ連版ボーイスカウト）の専用施設（「ラーゲリ」）として共産主義を担う少年少女の育成のために創設されたが、1991年のソ連崩壊後は党組織から青少年社会支援基金を経て教育省に移管され、2009年の大統領令によって現在の名称となった。主な活動は①さまざまな分野で優れた成績を挙げた子どもに対するエリート教育、②子どもの健康増進、③不遇な子どもの支援であり、年間約1万4000名を受け入れている。

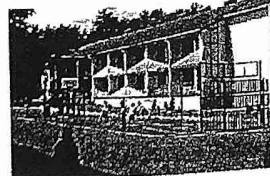
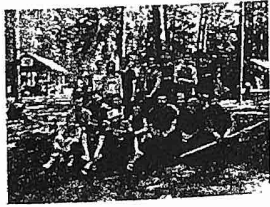
所在地

ミンスク州北部、ミャドゼル地区のナローチ国立公園の敷地内。面積は76ヘクタール。



3. 施設

- センター敷地には計56の建物・建築物がある。
- ◆ 5棟の宿泊棟（「紺碧の島」、「森の家」、「湖畔の波止場」、「太陽の町」、「星の世界」）
- ◆ 家族向け保養棟「緑の草原」、遊戯館「7番目の大陸」、医療棟、子ども創作ホール、管理受入れセンター、学校、食堂など
- ◆ 水泳プール、サウナ、映画館、教育ホール、ビデオ鑑賞ホール、ビリヤード場、体育館（2棟）、卓球場、コンピュータークラブ、スタジアム、屋外のテニスコート、屋外のバレーボール、バスケットボール、ハンドボール場、ビーチバレーコート、演劇用衣装部屋、「インテレチュアル・センター」
- ◆ 夏季コース向け「友情広場」と「祭典広場」、水上演劇用「緑の劇場」と「おとぎ話の草原」



4. 教育

学習・教育・健康の活動は、組織方法課、学習活動課、教育組織課の「星」と「青空」のグループ、子ども創作・文化グループ活動課、体育・健康活動課によって運営され、目的に応じたさまざまなプログラムがある。学校のある時期には国の指導要領に基づく教育を提供する（授業はベラルーシ語とロシア語を使用）。授業は設備の整った教室で行われ、選択制の授業や各科目の意欲を高める支援科目もある。子どもには教科書や参考書が提供される。

5. 医療

センターには保養する子どものための医療支援と健康増進を行う専門部署がある。病院、口腔外科、物理療法の診察室、医療体操用ホールを備え、医療関係者は医療が必要な子どもに対し24時間サービスを行う。必要な場合はミャドゼル地区中央病院で診察や治療を行う。医療支援・健康増進課は定期的に病気の予防活動を行い、センター内の衛生状態や食事のメニュー・質を管理している。

6. 子どもの成長

子どもが社会的に成長し、自らの生き方を意識的に選択し、ベラルーシの国と社会の発展に責任をもって参加していく準備を行う。レクチャー、ディスカッション、円卓会議、ブレインストーミングの他、青少年活動問題のフォーラム、社会・ビジネス・芸術プロジェクト、慈善活動や自治組織の仕事への参加などにも力を入れる。政治家、学者、文化・芸術分野の著名人、若い世代のリーダーとの対話集会も開催されている。

7. 利用者

ミンスク州及びミンスク市の教育行政機関が選抜した子ども。地方枠は当該地方の生徒数に比例配分。空きのある場合は施設利用券を有料で販売している（外国も対象）。

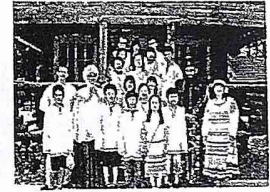
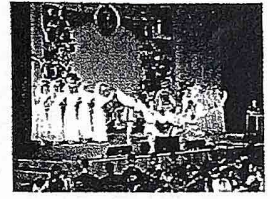
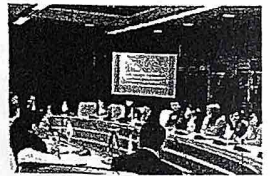
8. 国際活動

「ズブリヨノク」の利用者は国内だけでなく、これまでに40カ国以上の子どもを受け入れている。また毎年、さまざまな国際フォーラム、学術会議などが開催されている。

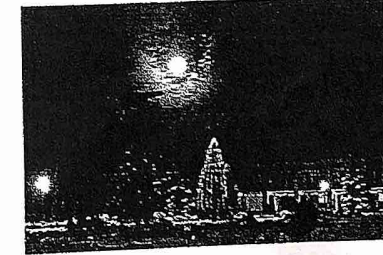
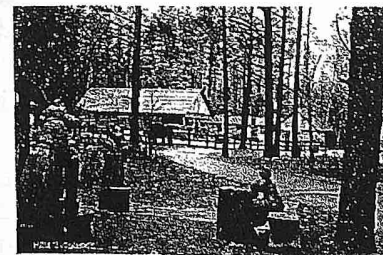
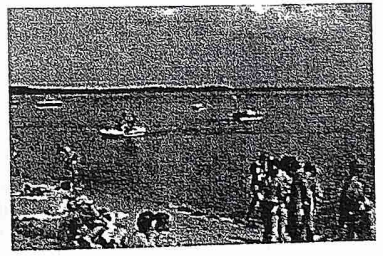
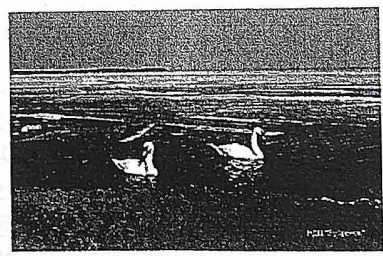
9. 財源

センターの財源は国家予算であるが、有償事業、企業や個人の無償（スポンサー）支援などから得る収入にも頼っている。

（以上、 <http://www.zubronok.unibel.by/> などを参考）



「ズブリヨノク」の四季



その他の写真は以下参照 <http://www.zubronok.unibel.by/foto.html>